



水戸ブレインハートセンター

Director Note



院長ノート

とは

病院のホームページに掲載している畑山院長のエッセイです。
月に1回くらい、脳外科診療や日常生活で感じている想いを
軽妙なタッチで書き連ねています。
ご興味ありましたらQRコードから過去の内容もご覧下さい。



脳神経外科医
畑山 徹
(はたやま とおる)

1963年生まれ
青森で育ち、弘前大学を1988年に卒業
日立市の病院で河野拓司理事長に手術の
手ほどきを受け、東北各地で腕を磨いた
のち、2013年から当院に勤務
アメリカで三叉神経痛と顔面痙攣の治療
を学び、国内でも有数の実績を持つ
趣味は我流のピアノ
たまにライブハウスで演奏

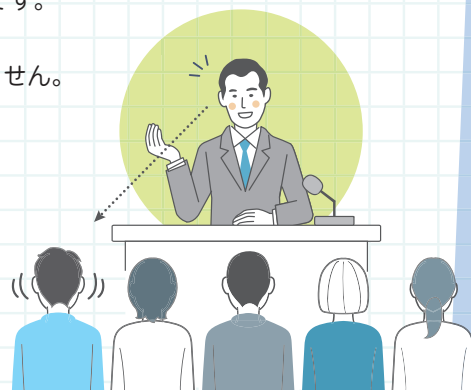
vol. 55

はた流コミュ術

第5条「うなずく」

はた流コミュ術十か条も中盤戦に入っていますが、まだ「話し方」の番ではありません。
第4条「まず聞く」と一緒に役立てているのが、第5条「うなずく」です。

立場上、大きな会場でたくさんの人を前にして話すことは少なくありません。
そんな時、緊張をほぐすために使っている方法があります。
「うなずく人」を見ることです。
緊張は、うまく伝わっているかどうかを心配するせいで高まります。
一方、聞いている人の中に「うなずく人」を見つけると、わかって
もらえている気がして落ち着けます。
首を縦に振るだけで、話す勇気を与える魔法の動作。
それをコミュ術にも活用しましょう！



診察を受ける時の不安は、病気のせいだけじゃありません。
症状はきちんと伝わっているか？
気持ちをわかってもらえているか？
相手の反応が乏しいと、ますます心配してうまく話せなくなってしまう
います。

無意識に「うなずける」のは、相手の話に納得できたときでしょう。
でも、寄り添う気持ちを示したいときも「うなずける」ようにすれば、
共感を動作でも表せるんじゃないかと考えています。



ちなみに、うなずけばいいとは言っても、タイミングや回数をうまく
相手に合わせないと、別な不安を生じさせますから注意が必要です。
家で中途半端にうなずいていると、「ちゃんと聞いてるの？」と突っ込みを入れられることがありますので…
(笑)。

次回からはいよいよ話し方編です。

第6条は「わかる言葉で話す」

院長ノートはこちらから→
<https://mito-bhc.com/blog/blog.html>

